



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

元外交官で外交評論家の岡本行夫さんの訃報が届きました。4月24日、新型コロナウイルス感染症により逝去。享年74。

5月8日付の石破茂代議士のブログを一部、引用します。〈冷静な分析力、透徹した確固たる歴史観、祖国日本と人々に対する限りなく温かい眼差しを持った方でしたし、いつの時にも心のこもった見事な文章やスピーチを披露される方でした。特に2003年、イラクにおいて奥克彦・外務省参事官(当時、没後大使に特進)が射殺された際、「君は死んで英雄になったのではない。英雄が死んだのだ」とスピーチされたことは強烈に印象に残っています〉

死んで英雄になったのではない。英雄が死んだのだ——胸に

155 外交評論家 岡本行夫



冷静沈着、現場主義、情に厚い眞の愛国者。保守もリベラルも、様々な著名人や政治家が、立場を超えて岡本さんの人間性を称賛し、その死を悼んでいます。その「常に冷静な判断力」

「常に冷静な判断力」

2018年)。「コロナでだけは死にたくない」と思う人は多いでしょう。実際問題、コロナで死ぬ人は非常に少ないのです。にもかかわらず、日本は封じ込めに失敗したと騒ぎ立てるメディアや一部専門家が、犯人捜しを始めています。懸念すべきは、この空気に庄され大切な記録が官僚の手により改ざん、抹殺されてしまうこと。

日本総研主席研究員の藻谷浩介氏の調査によれば、5月4日時点で人口100万人あたりの日本の死者数は4人。欧米各国は3桁台と、大きな差があります。日本は誤魔化していると考える人もいますが、もし倍の死者数がいたとして10人に満たないのです。

一方、我が国のインフルエンザでの死者数は人口100万人あたり27人。肺炎による死者数は、同759人(誤嚥性肺炎を除く)。がんによる死者数は同3000人。自殺者は同161人(いずれも

岡本さんは、3月放送のテレビ番組で、財務省文書改ざん問題に触れ次のように語っていました。「私は長いこと役人をしていました。役人は、徹底的に正確な記録を書くことを叩き込まれます。文書と記録は役人の命です。ましてや、その文書を改ざんするなどは考えもしません」。貴重な遺言です。ウィルスより恐ろしいのは、恐怖心が生み出す「空気」です。今こそ冷静な判断力を、岡本さんから見習いたいと思います。